



第2章 歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

井上, 舞 ; 奥村, 弘 ; 市澤, 哲 ; 木村, 修二 ; 加藤, 明恵 ; 松本, 充弘 ; 室山, 京子 ; 松下, 正和

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 18 (2019 (令和元) 年度事業報告書) :33-50

(Issue Date)

2020-03-22

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012154>



第2章

歴史文化を活かしたまちづくり支援と自治体史の編纂協力

兵庫県文化遺産防災研修会

兵庫県文化財防災研修会は、自然災害から地域の文化財等を守るため、兵庫県内の文化財担当職員や、博物館・資料館学芸員らが防災対策を話し合い、大規模災害発生時の相互支援体制の構築に向けた情報共有の場とするために企画されたもので、2017年度にキックオフ研修会、第1回研修会が行われている。

2018年度は、文化財保護法の改正を受けて、全国の市町村において、文化遺産の保存・活用についての目標や、具体的な中長期計画を記載した、文化財保存活用地域計画の作成が行われることを見越し、同計画の中に文化遺産の防災に関する項目を盛り込んでもらうことを企図し、その準備期間として兵庫県教育委員会との調整を重ねてきた。

今年度、7月から9月にかけて、5回にかけて行われた研修会では、兵庫県下ほぼ全ての市町村からの参加があった。研修会では、文化財防災に関する講義やワークショップのほか、県や市町の防災担当者より、自治体の防災体制についての講義が行われた。また、会の最後に行われたディスカッションでは、具体的な資料のレスキュー方法に関する質問が多く出たほか、現実に災害が起こった際に、文化財担当者がスムーズに動けるための体制づくりについてなど、具体的かつ有意義な議論が交わされた。

今回得られた、市町職員からの意見・発災時の懸念事項などを踏まえつつ、次年度以降についても継続的に研修会を開催していく予定である。

兵庫県文化遺産防災研修会

プログラム (予定)

12:30	開場・受付開始
13:00～13:10	開会挨拶 内田俊秀 (京都造形芸術大学 名誉教授)
13:10～13:40	奥村弘 (神戸大学大学院人文学研究所) 「大規模自然災害時に文化遺産防災を進めるために」
13:40～14:10	西口芳隆 (兵庫県企画情報部防災企画課 企画課長) 「兵庫県の地域防災体制について (仮)」
14:10～14:20	休憩
14:20～15:30	松下正和 (神戸大学地域連携推進室) 「災害時の資料救出と応急処置について」
15:30～15:40	休憩
15:40～16:20	質疑応答・ディスカッション
16:20～16:30	閉会挨拶 山下史朗 (兵庫県教育委員会 事務局文化財課)

日時：令和元年 7月 25日 (木)
13:00～16:30
場所：神戸大学大学院人文学研究所 C棟 5階大会議室

お問い合わせ先
〒657-8501 神戸市東灘区八木南町1-1 神戸 商
TEL 078-803-5070 FAX 078-803-5568
E-Mail mail-inoou@people.kobe-u.ac.jp

〈開催日・会場・参加人数〉

- 第1回：7月23日、神戸・阪神地域対象、於神戸大学、13機関30名
- 第2回：8月3日、東・北播磨地域対象、於加古川市立勤労会館、14機関24名
- 第3回：8月23日、西・中播磨地域対象、於日本城郭研究センター、14機関20名
- 第4回：9月2日、丹波・但馬地域対象、於朝来市埋蔵文化財センター、12機関14名
- 第5回：9月9日、淡路地域対象、於洲本市役所、8機関13名

〈プログラム〉

13:00～13:15 開会挨拶 内田俊秀（京都造形芸術大学名誉教授）

13:15～14:00 奥村弘（神戸大学大学院人文学研究科）※1「大規模自然災害時に文化遺産防災を進めるために」

14:00～14:30 「各地域の地域防災体制について」※2

14:30～14:40 休憩

14:40～15:30 松下正和（神戸大学地域連携推進室）「災害時の資料救出と応急処置について」

15:30～15:40 休憩

15:40～16:20 質疑応答・ディスカッション

16:20～16:30 閉会挨拶（兵庫県教育委員会事務局文化財課）



主催：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター、兵庫県教育委員会

共催：COC＋ひょうご神戸プラットフォーム協議会

協力：歴史資料ネットワーク、科学研究費特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(研究代表者:奥村弘)研究グループ、大学共同利用機関法人人間文化研究機構「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」

※1 9月2日の朝来での研修会のみ、奥村欠席のため、内田俊秀が「文化遺産防災研修の

目指すもの」と題する講義を行った。

※2 各回の講師は以下の通り、

第1回：森口芳隆（兵庫県企画県民部防災企画局防災企画課防災計画班）

第2回：前田剛（加古川市危機管理課地域防災係）

第3回：大塚義則（姫路市役所 市長公室 危機管理室）

第4回：長野大輔（朝来市危機管理室防災安全課）

第5回：濱端健一（洲本市総務部消防防災課）

（文責・井上舞）

兵庫県地域創成局地域遺産課との連携

兵庫県は、2017年度に地域遺産活用方策検討委員会設置要綱を策定し、県内の地域遺産のデータベース化を行うとともに、その活用方針を検討し、県民のふるさと意識の醸成と地域活性化を図ることを目的として、地域遺産活用方策委員会を設置した。同会の委員長に奥村が就任した。

このほか、県政資料館（仮称）基本計画策定委員会に奥村が委員長として参加。兵庫津にできる新たなミュージアムの基本構想に、これまで地域連携センターが展開してきた兵庫津についての歴史研究と地域歴史遺産の保存と活用についての実践的研究の成果を反映させた。

（文責・奥村弘）

兵庫県教育委員会文化財課との連携

兵庫県文化財課と連携して、本年度は文化財防災研究会を5カ所で開催した（詳細 井上）また文化財保護法の改定に伴う兵庫県文化財保存活用

大綱作成のための兵庫県文化財保存活用大綱策定協議会委員として奥村が参加。県の大綱にこれまで地域連携センターが展開してきた地域歴史遺産の保存と活用についてのあり方についての実践的研究の成果を反映させた。

(文責・奥村弘)

神戸市との連携事業

1. 神戸市文書館との連携事業

神戸市文書館との間で、2006年度から共同研究「歴史資料の公開に関する研究」を継続して行っている。今年度の事業内容は、①神戸市文書館に収集・所蔵される歴史史料の整理、調査、さらに公開、活用のための土台作り、②神戸市文書館の来館者に対するレファレンスサービス（特に古文書の解説）であった。

また、地域連携センター事業責任者・奥村弘らが監修を務める『新修神戸市史』生活文化編の執筆が終了した。本年度未刊行の予定である。

(文責・奥村弘)

2. 神戸村文書の研究と成果の公開事業

神戸市立中央図書館が所蔵している神戸村文書の研究、その成果の公開活用事業を、神戸市教育委員会文化財課との共同研究として行った。今年度は本事業の5年目に当たっており、一つの節目として書籍『神戸村文書の世界』の刊行作業を進めた（2020年3月刊行予定）。また、例年通り、市民を対象とした「神戸村文書を読む会」を2月24日、3月2日（いずれも会場はこうべまちづくり会館）に開催すべく準備を行ったが、3月2日は新型コロナウイルス対策のため中止せざるを得なかった。

(文責・市沢哲)



包括協定にもとづく灘区との連携事業

本年度は灘区と連携した活動はなかった。なお、2020年2月現在の『篠原の昔と今』（2005年度発行）、『水道筋周辺地域のむかし』（2006年度）の残部は共に約200部となっている。学外・学内ともに送付依頼は少なかった。

(文責・木村修二)

神戸市を中心とする文献資料所在確認調査

1. 神戸市を中心とする文献資料所在確認調査

今年度本事業に関連する新規および継続中の調査はなかった。

(文責・木村修二)

2. 神戸大学附属図書館との連携

(1) 郷土文書の整理

前年度に引き続き、人文学研究科院生で日本中世史専攻の山本康司君に文書の整理作業に当たってもらった。まとまった文書群としては、ほぼ整理が完了し、過去に実施した整理分について、その後の整理方針変更点を反映させるべく、全面的

な見直しを進めることを中心に作業を進めた。また、「神戸開港文書」について、補遺分の整理も進めた。

また昨年度報告書で予告したように、今年度故若林泰氏収集文書の一部が附属図書館に寄付されたので、データベース化に向けた整備作業を開始した。

前述のように附属図書館貴重書庫収蔵の古文書の整理作業は、ほぼ終盤を迎えており、今後次の展開としてデジタルアーカイブ公開の可能性など、図書館側と協議を重ねながら進めてゆきたい。

(文責・木村修二)

財団法人住吉学園との連携事業

2018年4月1日に発足した住吉歴史資料調査会(神戸市東灘区・住吉歴史資料館内)との連携事業は2年目を迎え、本年度も専門委員として同会の調査活動に協力した。

調査活動においては、主に住吉村横田家文書(本住吉神社所蔵)および摂津国兔原郡住吉村文書(大阪歴史博物館所蔵)の翻刻を行ったほか、本学人文学研究科古市晃准教授、同美術史学専修の太田梨紗子氏・岡崎有紀氏の協力を得て、吉田家(神戸市東灘区御影)所蔵史料について概要調査・目録作成を行った。

昨年度から継続している古文書勉強会については、同会会員・菟原茶道会・地域住民から参加者を募り、2019年4月25日、5月20日、6月27日、7月25日、9月26日、10月31日、11月28日、2020年1月30日の8回を開催した。11月14日には、住吉中学校トライやるウィークのため住吉歴史資料館が受け入れた生徒2名に対し、古文書の取り扱い・読解についてのレクチャーを行った。

(文責・加藤明恵)

大学協定にもとづく小野市との連携事業

2017年度より開始した「小野地区歴史調査及び伊藤家文書を活用した小野市幕末・明治期の歴史研究」という課題名による連携事業に本年度も引き続き取り組んだ。

小野市立好古館における企画展については、

①「幕末・明治の小野と軍隊」(会期:2019年4月27日～6月23日)を5月6日・6月9日に展示説明会を開催し、津熊友輔氏(本学人文学研究科博士後期課程)・出水清之助氏(同)が解説を行った。展示製作にあたっては、津熊・出水両氏が史料調査・キャプション作成等に取り組んだ。

②「祭りとくらしの移り変わり～小野地区の近現代～」(会期:2019年10月5日～12月8日)を本学人文学研究科地域連携センター・小野市立好古館が主催した。関連講演会として、11月3日にコミュニティセンターおのにおいて、津熊友輔氏・出水清之助氏が講演「旧小野藩士は明治をどう生きたか?～小野市立好古館所蔵伊藤家文書から分かる維新後の士族～」を行い、2018年度から本年度にかけて両氏が進めてきた伊藤家文書に関する研究成果を市民に向けて報告した。

伊藤家文書および小野地区の歴史資料については、主に地租改正に関連する史料を中心に、津熊・出水両氏が2020年2月18日・19日に小野市立好古館において調査予定である。

(文責・加藤明恵)

連携協定にもとづく朝来市との連携事業

2005年3月に朝来郡生野町と締結された協定は、同年4月の市町村合併により朝来市に引き

継がれた。以降、市域所在資料の保全・活用に取り組んでいる。今年度は次のような事業に取り組んだ。

1. 民間所在資料の調査・整理

(1) 石川家文書整理会の開催

石川家文書は、朝来市生野町に所在する石川家に伝えられてきた、近世～近代にかけての膨大な資料群である。神戸大学は2008年より同家文書の調査に取り組んでいる。2015年からは、新出資料の整理を進めるべく、地域住民らの参加を募り、毎月第2・第4火曜日に石川家文書整理会を開催している。今年度上半期までは、蔵書目録の作成に取り組み、これが完了して以降は、近世文書の目録作成を行っている。参加者は日によってまちまちであるが、市外からの参加者も多く、現在まで途切れることなく開催できている。

なお、蔵書の整理完了に伴い、朝来市・神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター成果展「蔵書からみる地域の歴史－石川家と近世生野のくらし－」（会期：2020年2月～4月5日、於朝来市埋蔵文化財センター古代あさご館）が開催されている（巡回展として、4月以降は生野書院で開催予定）。また、関連行事として、3月7日に体験行事「昔の本を読み・ふれてみよう」（講師：室山京子／神戸大学大学院人文学研究科学術研究員・同非常勤講師（研究））が、3月22日に講演会「石川家の蔵書と生野の文化」（講師：石橋知之／神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程）がそれぞれ朝来市埋蔵文化財センターで開催予定であったが、新型コロナウイルス対策のため中止となった。

(2) 多々良木歴史研究会への協力

2017年度より、朝来市多々良木地区の地域住民らにより結成された、多々良木歴史研究会と協力し、同地区の区有文書の整理に取り組んでいる。整理会は基本的に毎月第2水曜日に開催し、資料のクリーニング、目録作成、写真撮影を行っている。2019年5月には、これまでの活動成果を地域に還元するために、「第1回 多々良木古文書展」（於多々良木公民館）を開催した。開会式

では、井上舞が「資料から覗く多々良木の暮らし」と題する講演を行った。

この展示がきっかけで、今年度、元地域住民より研究会に、家にあったという古文書が寄贈された。区有文書の整理が完了したため、現在はこの古文書の整理作業を行っている。



第一回
多々良木古文書展
古文書から先人の暮らしを知ろう

期間 平成31年4月28日(日)～5月3日(金)
午前10時～午後3時

場所 兵庫県朝来市多々良木458
多々良木公民館 2階広間

共催：朝来市多々良木区 多々良木歴史研究会
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
協賛：朝来地域自治協議会
後援：朝来市教育委員会
連絡先：079-678-9580(いなな暮らし塾：松木)

(3) 山田家文書の調査・整理

継続事業として、山田家文書の目録作成および写真撮影に取り組んだ。また、2019年8月8日・9日に、生野クラブで調査合宿を行い、これまで未整理だった書籍類の整理・調査を行った。2日間の調査で、全ての書籍類の調査を終えた。また、成果展「山田家の本と雑誌」（2020年3月3日～8日、於奥銀谷自治協議会かながせの郷）において、調査合宿の成果を還元した。

(4) その他

(1)～(3)のほか、生野書院に保管されている屏風の下張り文書の調査、朝来市新井地区の美術資料調査等に取り組んだ。

2. 生野書院企画展への協力

生野書院では、毎年秋に企画展が開催されている。地域連携センターは、2017年度より展示協

力を行っている。今年度の企画展「生野県 150 年」（2020 年 1 月 25 日～3 月 29 日）については、津熊友輔（神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程）が資料解説、内容分析等に取り組んだ。また、2020 年 3 月 15 日には、記念講演「「県庁所在地」生野の明治維新」（講師：津熊友輔）、および「生野代官所をとりまく生野の人々—江戸時代の生野の町—」（講師：石橋知之）が予定されていたが、新型コロナウイルス対策のため中止となった。

（文責・井上舞）

丹波市との連携事業

神戸大学大学院人文学研究科と丹波市は 2007 年度に協定を締結した。以降、市域所在資料について調査・保全・活用に取り組んでいる。今年度については、次のような事業に取り組んだ。

1. 歴史講座および古文書相談会の開催

昨年度に引き続き、歴史講座を開催した。今年度は「丹波の歴史を知る・つなぐ」をテーマとし、以下の日程で開催した。また、古文書相談会も同時に開催した。今年度は 4 件の相談があった。時間はいずれも 13:30～15:00。

- ① 6 月 8 日（土）：松下正和（神戸大学地域連携推進室）「春日の村絵図について」、於春日福祉センター
- ② 7 月 13 日（土）：井上舞（神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター）「市島町域の縁起と伝承」、於ライフピアいちじま
- ③ 8 月 3 日（土）：山内順子（丹波市文化財保護審議会委員）「中井権次の『萬覚帳』と彫刻下絵—江戸期社寺彫刻師の活動実態例として—」、於柏原福祉センター
- ④ 9 月 7 日（土）：井上舞「丹波市域の俳諧文化」、於山南住民センター
- ⑤ 12 月 14 日（土）：出水清之助（神戸大学大

学院人文学研究科博士課程後期課程）「丹州氷上村村上家文書を読む」、於氷上住民センター

- ⑥ 2 月 15 日（土）：加藤明恵（神戸大学大学院人文学研究科）「古文書からみる山垣村のくらし」、於青垣住民センター

（文責・井上舞）

令和元年度連続講座

丹波の歴史を知る・つなぐ

丹波市と神戸大学人文学研究科は、平成 19 年度から地域連携協定をむすび、地域に残る古文書を中心とした歴史資料の調査・研究をおこなっています。本講座では、これらの調査成果を市民のみならず広くお伝えします。また、講座の終了後には、お宅や地区でお持ちの古文書などについて、「保管に困っている」「まちづくりに利用したい」といった相談もおこなえます。

6/8 (土)	松下 正和 <small>神戸大学地域連携推進室</small>	春日の村絵図について <small>春日福祉センター（ハートフルかすが） 13:30～15:00</small>
7/13 (土)	井上 舞 <small>神戸大学大学院人文学研究科</small>	市島町域の縁起と伝承 <small>ライフピアいちじま 13:30～15:00</small>
8/3 (土)	山内 順子 <small>丹波市文化財保護審議会委員</small>	中井権次の『萬覚帳』と彫刻下絵 —江戸期社寺彫刻師の活動実態例として— <small>柏原福祉センター（木の根センター） 13:30～15:00</small>
9/7 (土)	井上 舞 <small>神戸大学大学院人文学研究科</small>	丹波市域の俳諧文化（仮） <small>山南住民センター 13:30～15:00</small>
12/14 (土)	出水 清之助 <small>神戸大学大学院人文学研究科 博士課程後期課程</small>	丹州氷上村村上家文書を読む（仮） <small>氷上住民センター 13:30～15:00</small>
2/15 (土)	加藤 明恵 <small>神戸大学大学院人文学研究科</small>	古文書からみる山垣村のくらし（仮） <small>青垣住民センター 13:30～15:00</small>

申込不要・入場無料
問い合わせ 丹波市教育委員会文化財課（Tel 0795-70-0819）

2. 丹波市内古文書調査

本年度は下記の通り市内文書調査を実施した。

- ① 5 月 23 日～25 日：柏原歴史民俗資料館資料調査、春日町棚原での調査、円通寺文書調査
- ② 7 月 13 日・14 日：青垣町山垣区有文書調査、同足立家文書調査、氷上町常照寺文書調査
- ③ 7 月 23 日：亀山藩領絵図調査
- ④ 9 月 6 日：白毫寺文書調査
- ⑤ 11 月 16 日・17 日：常勝寺、高座神社調査
- ⑥ 11 月 23 日：春日町棚原での調査（棚原親子教室への開催協力）
- ⑦ 12 月 14 日・15 日：植野記念美術館受入資料の調査、高座神社文書調査、足立家文書調査

3. 絵図のデジタルデータ化

昨年度、資料活用を図るために修復した春日町棚原区所有の絵図につき、今年度はこれをデジタルデータ化した。このほか、山南町域に所蔵されている絵図についても、同様にデジタルデータ化を行った。丹波市域には多くの絵図が残されているが、なかには大型のものや傷みの激しいものがあり、現物を用いた活用が難しい場合がある。こうした際に、デジタルデータを使用することによって、原資料を損なわず、かつ広く資料の存在を知ってもらうことが可能である。次年度以降もデジタルデータ化作業を進めつつ、効果的な活用方法について検討していく予定である。

(文責・井上舞)

4. 氷上古文書倶楽部への協力

昨年度 2019 年 1 月 12 日より再開した氷上区有文書の解説会を今年度も継続した。氷上区有文書・箱 2-72「氏神八王子権現之撞鐘之銘文左之通り候」を読み、解釈などについて話し合った。講師は加藤明恵が務めた。

今年度は、2019 年 8 月 30・31 日、11 月 9 日、2020 年 1 月 19 日に、本学人文学研究科古文書室が所蔵する丹波国氷上郡氷上村・村上家文書の整理を氷上古文書倶楽部と行った。跡部史浩氏(本学人文学研究科博士後期課程)・出水清之助氏(同)・加藤明恵が古文書目録の採録についてアドバイスしながら、合計 134 通の目録カードを作成した。各回それぞれ 10 名程度の参加者を得た。次回の村上家文書整理会は 2020 年 3 月 20 日を予定している。

(文責・加藤明恵)



5. 丹波古文書倶楽部への協力

本年度も毎月第 2 土曜日に丹波市住民センター(柏原・春日・山南)および丹波の森公苑を会場に古文書解説の例会が開催され(8 月は休会)、木村がチューターを務めた。

なお、1 月 11 日の例会後には、倶楽部主催のフィールドワークが開催され、丹波市山南町谷川地区常勝寺、高座神社などの見学をおこなった。約 50 名参加。

(文責 木村修二)

連携協定にもとづく加西市との共同事業

加西市と神戸大学との連携協定は、2009 年 5 月 16 日に締結された。これにもとづき、今年度は次のような事業に取り組んだ。

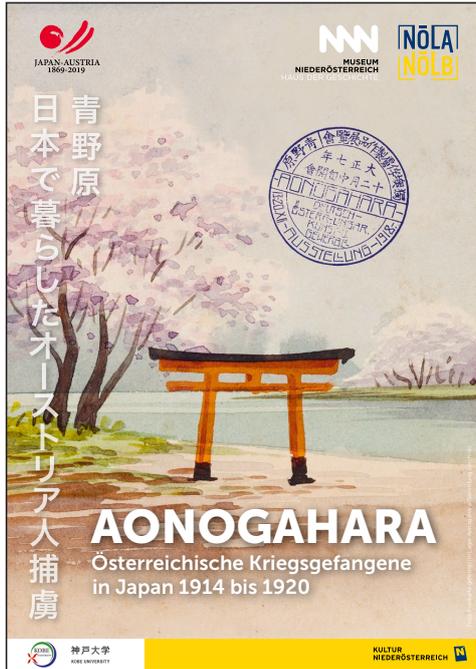
1. 青野原俘虜収容所に関する資料調査

第一次世界大戦中に加西市に設置された青野原俘虜収容所については、当初小野市好古館との事業において、写真資料等の調査が行われていた。2012 年度以降は加西市立図書館郷土資料係、2015 年度以降は同市教育委員会生涯学習課市史文化財係と共同調査を行っている。2019 年度は、次のような事業に取り組んだ。

- ① 防衛省防衛研究所所蔵『欧受大日記』における青野原俘虜収容所関連重要資料の翻刻作業
- ② 同資料に基づく青野原俘虜収容所に関する統計データの整理・捕虜が残した日記の翻刻作業

これらの調査・研究は、2. の鶴野飛行場跡の調査成果とともに、次年度に加西市戦争遺跡総合調査報告書としてまとめる予定である。

また、下オーストリア州歴史博物館における青野原俘虜収容所に関する展示「Aonogahara Austrian POWs in Japan 1914-1920」(11 月 29 日～2020 年 3 月 13 日)を、加西市とともに共催した。



2. 鶉野飛行場跡に関する資料調査

鶉野飛行場跡は、昭和 17 年に着工し、昭和 18 年に完成した旧日本海軍の飛行場跡である。同飛行場跡については、2011 年に加西市との連携事業の中で調査が行われている。今回、青野原俘虜収容所とあわせて、戦争遺跡としての総合調査を行うため、また、飛行場跡の活用をはかるため再調査の依頼があった。

今年度は、5 月 17 日に現地調査を行ったほか、次年度刊行予定の報告書作成のための資料の収集につとめた。また、佐々木が「鶉野飛行場フィールドミュージアム（仮称）」のアドバイザーに就任した。

3. その他

井上が、加西市文化財審議委員に就任し、6 月 12 日、2020 年 3 月 16 日の委員会に出席した。また、同じく井上が、加西市文化財保存活用地域計画協議会委員に就任し、9 月 17 日、12 月 23 日、2 月 20 日に開催された委員会に出席した。

（文責・井上舞）

尼崎市における連携事業

本年度も引き続き、尼崎市立地域研究史料館の専門委員を務め、館の運営について助言を行った。今年度は来年度開館予定の尼崎市立歴史博物館における史料館の位置づけに関する助言が中心となった。

（文責・市澤哲）

三木市における連携事業

1. 三木市史編さん支援事業

2016 年度より三木市教育委員会教育企画部文化スポーツ振興課市史編さんグループで進められてきた新三木市史編さん事業について、今年度も「受託型協力研究」として特命教員を派遣し、木村修二が担当した。

編さん事業全体としては、昨年度確定した編さん計画に基づき、通史編各部会、地域編各部会（既に立ち上がった部会のみ）とも、それぞれ独自に立てられた方針に基づき、比較的順調に調査や編さん活動が進められた。

編さん室の体制は、民俗学を担当する編さん学芸員が 1 名加わったものの、文献史料担当の編さん学芸員や編さん委員会が要望する市職員（経理担当など）の増員がなかったため、スタッフ一人一人の業務の負担が大きく、課題を残した。ただ今年度は、資料整理補助員に神戸大学非常勤講師山本康司氏が週 2 回来室され、文書の整理に当たってもらった結果、数千点規模のまとまった文書群 3 件の目録作成を終えることができた。惜しくも同氏による作業は今年度限りで終了するが、

来年度は編さん学芸員が2名増員され、フルタイムで業務に当たってもらうことが決まっており、懸案の史料整理が大幅に進むことが期待される。また、週2日の市民ボランティアの精力的なご協力も、史料整理進展の要因であり、中でも月の第一週目の活動は、目録作成作業に専念していただくことで、数件の文書群の目録作成作業を終えることができたことが特筆されよう。

なお、市史編さん事業全体の方針を確認・決定する市史編さん委員会は、下記のように年度内に2度開催され、いよいよ今年度末に刊行が予定されている地域編『口吉川の歴史』を中心に、新三木市史全体にわたる協議がなされた。

また、市史編さん委員会と相前後するように通史編の編門委員会も2回開催された。こちらは、通史編の各部会の調査活動方針の確認、および実施状況の報告、予算執行状況などが協議された。

地域編専門委員会は、本稿執筆までに開催はなされなかったが、3月上旬に開催が予定されている。こちらもやはり、『口吉川の歴史』を中心に各部会の作業状況や予算執行状況、今後立ち上がる予定の部会（三木、青山）について協議される予定である。

①市史編さん委員会

- ・8月30日 於市史編さん室
- ・2020年1月9日 於市史編さん室

②通史編専門委員会

- ・6月21日 於神戸大学文学部
- ・12月23日 於神戸大学文学部

③地域編専門委員会

- ・2020年3月10日予定 於市史編さん室

三木市史編さん事業の調査研究活動については、各専門委員会に配置された部会単位で行われる。通史編専門部会については古代、中世、近世、近代、現代、文化遺産、考古、自然環境の8部会で構成され、一部を除き各部会とも概ね2回開催された協議では、今後の調査方針等について議論が交わされた。通史編各部会の協議開催状況

は下記の通りである。

- ・7月12日 第1回自然環境部会 於市史編さん室
- ・8月11日 第1回近世部会 於市史編さん室
- ・8月31日 第1回中世部会 於市史編さん室
- ・9月3日 第1回古代部会 於六甲道勤労市民センター
- ・10月9日 第1回文化遺産部会 於神戸大学文学部
- ・10月25日 第2回自然環境部会 於市史編さん室
- ・12月7日 第2回中世部会 於市史編さん室（市内巡検を兼ねる）
- ・12月22日 第2回近世部会 於市史編さん室
- ・2020年3月22日（予定）第1回近代・現代合同部会 於市史編さん室

このほか、各部会の部会員が単独で行う調査もたびたびあったが、ここでは省略する。

次に、地域編の調査研究活動については、地域住民を中心とする地域部会によって担われている。今年度は、口吉川部会、志染部会、吉川部会、緑が丘部会の活動が進められた。各地域部会では地域編編さんに向けて、月1回程度の協議のほか、地域内の史料や文化遺産の調査に取り組んでいる。地域部会の活動については下記の通りである。とりわけ、今年度発刊が予定されている口吉川部会は、部会活動としては最終年度となるが、発刊へ向けた詰め協議が活発になされた。

①口吉川部会

- ・2019年4月23日 第26回
- ・5月28日 第27回
- ・7月4日 第28回
- ・7月30日 第29回
- ・8月28日 第30回
- ・9月19日 第31回
- ・10月23日 第32回

- ・11月21日 第33回
- ・12月26日 第34回
- ・2020年1月30日 第35回
- ・2月27日予定 第36回

②志染部会

- ・2019年4月25日 第16回
- ・5月23日 第17回
- ・6月20日 第18回
- ・7月18日 第19回
- ・8月29日 第20回
- ・9月26日 第21回
- ・10月24日 第22回
- ・11月21日 第23回
- ・12月26日 第24回
- ・2020年1月23日 第25回
- ・2月20日予定 第26回

③吉川部会

- ・2019年4月26日 第5回
- ・5月24日 第6回
- ・6月28日 第7回
- ・8月2日 第8回
- ・8月23日 第9回
- ・9月27日 第10回
- ・10月25日 第11回
- ・11月22日 第12回
- ・12月27日 第13回
- ・2020年1月24日 第14回
- ・2月28日予定 第15回

吉川部会では、2020年2月7日に、昭和30年以前の旧村（北谷村、中吉川村、奥吉川村）時代の思い出を古老に語ってもらう座談会を、吉川公民館で開催した。各旧村地区ごとに4～6名ずつ集まっていたいただき、活発に語っていただいた。今回は男性中心だったが、近日中に女性による座談会も開催が予定されている。今回の座談会を基礎に、できるだけ早期に個別の聞き取りが進められることが期待される。

④緑が丘部会

- ・2019年4月16日 第5回
- ・5月22日 第6回
- ・6月25日 第7回
- ・7月24日 第8回
- ・8月21日 第9回
- ・9月18日 第10回
- ・10月29日 第11回
- ・12月4日 第12回
- ・2020年1月22日 第13回
- ・2月26日予定 第14回

前述のように、三木市において雇用された「市史専門員」および「市史編さんボランティア」を中心として、市内自治会や旧家における史料調査・整理を実施した。また、市史編さん事業の成果の一端を示すため、2020年1月25日より3月22日まで三木市立みき歴史資料館の企画展として「地域の史料たち4—志染の近世—」と題する展示が開催されている。関連企画として、2020年3月8日に市史編さん委員・地域編志染部会部会長田中隆次氏による「交通の要路—古代・中世の志染—」と題した講演会が開催される予定である。

また、2020年2月5日～6日には昨年に引き続き旧玉置家住宅において神戸大学古文書合宿が開催された。準備過程では、1月21日に担当の市沢哲教授とTAの大学院生が来室し、整理作業の対象である細目区有文書の事前準備作業をおこなった。このように大学教育と市史編さん事業との連携活動も進んでいる。

市史編さん事業に関わる今年度の刊行物としては、『市史編さんだより』第7号（8月20日発行）および市史編さん室紀要『市史研究みき』第4号（8月31日発行）がある。なお『市史編さんだより』は年度内に第8号の発行を予定している。

前述のように、今年度末には、『新三木市史』の記念すべき第1冊目となる『地域編 口吉川の歴史』の発刊が予定されている。

2. 商工観光課との連携事業

2010年度より文化庁の地域伝統文化総合活性化事業（「三木市文化遺産総合活用活性化事業」）として、市民グループ「旧玉置家住宅文書保存会」による襖下張り文書保存活動が行われたが、事業終了後も市民グループ主体の活動が維持され、三木市商工観光課とともに同会の活動支援を実施している。

3. 三木市立みき歴史資料館

三木市立みき歴史資料館の事業について、館長の諮問機関である「みき歴史資料館協議会」の委員（会長）として参画し、同館の運営等に関わる助言を行った。

今年度は、10月11日に第1回協議会が開催されており、3月13日には今年度第2回の協議が予定されている。

（文責・木村修二）

三田市との連携事業

今年度も「旧三田藩主九鬼家資料の総合調査」という課題名で、近世初期鳥羽藩時代の九鬼長門守書状（卷子装・2巻）の調査を中心に行った。史料閲覧の便等を期すため、写真撮影を行う予定である（業者へ依頼。2020年3月中旬）。今後は、目録作成の完了、史料翻刻を進めることを目指す。

（文責・加藤明恵）

篠山市との連携事業

1. 丹波篠山市立中央図書館「地域資料整理サポーター」の活動支援

地域資料整理サポーターは、2013年度に結成され、2014年度より「丹南町史編纂史料」の目録作成を進めている。今年度も、2018年6月23日、7月28日、9月15日、10月20日、11月17日、2019年1月19日の計6回にわたり、サポーター活動の支援をおこなった。なお、昨年度に引き続いて人文学研究科博士課程前期課程の田中昇一君に助力を仰ぎ、サポーターへの助言等をお願いしている。また、原則毎週水曜日を「自主活動日」とし、有志のサポーターによって目録カードや翻刻文のパソコン入力・校正作業が進められている。

「丹南町史編纂史料」は、自治体史編纂時に収集・作成された複写物が大半を占めているため、出納などの取り扱い作業が容易である。なおかつ、当時の編纂担当者によって作成された翻刻文が付されているものも多く、古文書解読の入門テキストには好適といえる。「丹南町史編纂史料」を「図書館資料」として、幅広い市民による利活用につなげることがサポーター活動の目的地とすれば、本史料群は大きな可能性を秘めたものといえることができる。

一方、整理作業が6年目を迎え、サポーター活動の中で蓄積された目録カードには内容の粗密が目立ってきている。町史編纂時の翻刻文についても、誤読と思われる箇所が少なくなく、活動の中心はこれらの「チェック作業」に移ってきているといえるだろう。

以上のような現状を踏まえて今年度は、これまでのサポーター活動を振り返り、課題を見出すため、11月の活動日を使って『丹南町史』編纂担当者からの聞き取り調査をおこなうこととした。中央図書館へ旧丹南町元総務課長補佐の中西肇氏、元町史編纂係長の鷲尾隆圓氏、元臨時職員の水船幸子氏をお招きして、座談会方式で編纂当時のお話をうかがった。自治体史編纂にあたっての予算措置や史料収集の経験が数多く語られ、サポーターからも『丹南町史』の活用や地域資料の保全について活発な意見が交わされた。



また、サポーター活動を市民へ発信・還元することを意図して、中央図書館内でのパネル展示をおこなうこととした。会期は2020年2月1日より2月16日までで、①旧町村史の紹介、②丹南町史編纂の経緯、③古文書の紹介、等の内容を中心としてサポーター活動の成果を取りまとめることとした。初めての試みであるため、展示の構成や手法にはまだまだ改善の余地があるものの、このような取り組みを続けていくことで新たなサポーターの参加を呼び込み、市史編纂事業にも活かしていくことを念頭に工夫を重ねていきたいと考えている。

この他、今年度はサポーターの岩瀬秀子氏に、大阪歴史学会会誌『ヒストリア』第276号(2019年10月)の「地域の歴史を守り伝える」へ、「丹波篠山市立中央図書館での地域資料整理サポーター活動」をご寄稿いただいた。

2. 古文書合宿の実施

文学部「地域歴史遺産保全活用演習」および文学研究科「地域歴史遺産保全〔企画〕演習」等の授業(通称:古文書合宿)を、農学部丹波篠山フィールドステーションにおいて、2019年8月25日～8月27日の2泊3日で実施した。本合宿は、史学専攻の学生や将来博物館学芸員をめざす学生が、近年保存・活用のニーズが高い地域歴史資料について、その基本的な整理作業能力の習得をめざすものである。

今年度は、昨年度に引き続き、丹波篠山市立歴

史美術館所蔵の「山田家文書」および「中川家文書」の整理作業をおこなった。両史料群は、郷土史家の中野卓郎氏が仲介の労をとり、歴史美術館に所蔵されることとなったものである。山田家は篠山藩領内の大庄屋組である泉組の大庄屋を務める家柄で、中川家は藩士の家にかかる文書として貴重なものである。これらについては中野氏によって付番と封筒詰めなどの整理作業がおこなわれ、主要史料については翻刻文も付されている。ただ、目録が史料の概要を記したものに留まっていたため、文書閲覧者に供するために本合宿のなかで詳細目録を作成することとした。

3日間を通じて、昨年度の合宿で作業した史料と合わせてそれぞれの文書群の3分の2程度については詳細目録を作成することができ、最終日の8月27日には成果報告会も実施された。

3. 篠山市立中央公民館主催「古文書入門講座」への出講

古文書入門講座は丹波篠山市民を対象として年8回、古文書の読み解き方について講義をおこなうものである。市側の担当者は、中央公民館の河野克人氏である。受講生は5年を上限として、講座への参加を継続することができる。地域連携協定に基づいた活動ではないが、担当者の松本が前任者(大阪市史料調査会の松本望氏)から引き継ぎを受けて、平成29年度より2回の講座を担当している。内容面でこれまでおこなってきた連携事業と密接に関わることから、本報告書にも記載することとする。

今年度は、2019年8月5日の第3回と9月2日の第4回を担当し、青山歴史村所蔵の篠山藩政日記を利用して講座をおこなった。また、2019年11月11日の現地研修会も担当し、日置地区(旧波部家住宅)や波々伯部神社を巡検した。

4. 「部落史研究会ささやま」の活動支援

「部落史研究会ささやま」は、丹波篠山市文化財保護審議会会長の今井進氏が代表を務め、毎月

明石市との連携事業

2回実施している（毎月1回目に会員での解説、2回目に校正）。市側からは、市民生活部人権推進課の東田良子氏がこれを支援している。この研究会が発足した原点には、既刊の自治体史に被差別部落の歴史が立項されていないことに対する問題意識があった。地域連携協定に基づいた活動ではないが、担当者の松本が2018年1月17日に篠山市立中央図書館で開催された地域史料講演会を契機に今井氏よりお誘いいただいたことで、昨年度より参加しているものである。

今年度は昨年度に引き続いて、青山歴史村所蔵の藩政日記から、天保3年（1832）の雨乞にかかる記述を中心に輪読を進めている。8月分の解説に目途が立ち、郡奉行や町奉行、祐筆方や大坂役所など藩政日記の作成主体に着目した分析をおこなうことができる下地作りも進んできたと考えている。

5. 丹波篠山市史の編纂

丹波篠山市では、合併前の旧町村において町村史が編纂されてきたものの、記述内容が町村制発足以降の行政史に留まっているものが多く、唯一通史的な叙述スタイルをとった『丹南町史』にも史料編が存在しないなどの問題点があった。そこで、2028年の市制施行30年を目標に、丹波篠山市史の編纂が目指されることとなった。

初年度の2019年度は、市史編纂の準備期間として中央図書館に市史編纂業務を委ね（館長が市史編纂担当を兼務）、人文学研究科教授の奥村弘がこれを助言・指導するという形をとった。また、学術研究員を1名派遣して、市史編纂の基本方針や刊行スケジュールを作成した。現時点では、市史本編となる本文編・史料編とともに地域編を設け、他分野・他研究科の助力も得ながら編纂を進めていく予定である。

来年度は編纂委員会の立ち上げをおこなうとともに市内の歴史資料調査に着手し、市史編纂の取り組みを具体化・本格化させていきたいと考えている。

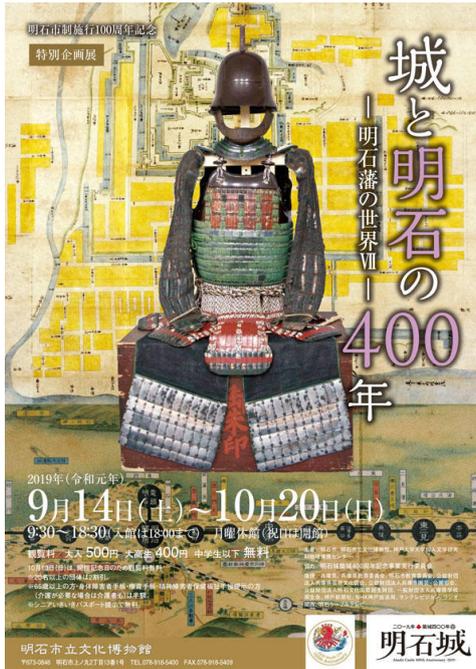
（文責・松本充弘）

1. 明石藩関連資料調査・公開業務委託

明石市立文化博物館では、2013年より同館所蔵の黒田家文書および明石藩関係史料の整理・分析成果の公開のため、毎年企画展「明石藩の世界」を開催している。今年度は、明石市制施行100周年記念特別企画展「城と明石の400年」（会期：2019年9月14日～10月20日）を、明石市、明石市立文化博物館、本学人文学研究科地域連携センターが主催した。展示製作にあたっては、明石市立文化博物館とともに、加藤明恵が構成立案、史料調査、パネル・キャプション製作に携わった。また、展示図録への解説記事・論考「明石藩による嘉永七年の海岸防禦」を執筆した。

展示関連企画として、9月16日・22日に明石市文化振興課の加納亜由子氏と加藤がギャラリートークを行い、9月28日に明石市立文化博物館において講演会を開催した（加藤明恵「明石藩日記から見る近世後期・幕末期の明石藩政」、加納亜由子「“廃城令”の時代を生きた士族たち」）。約80人の市民の参加を得、盛会であった。

昨年度より調査を行っている愛知県公文書館所蔵・明石藩「日記」の調査については、2020年2月下旬を予定している。



2. 明石市における地域資料の調査

(1) 地域資料調査

本調査は2015年度より、明石市市民生活局文化・スポーツ室文化振興課市史編さん室と共同で継続している。今年度は、主に①卜部昌行家文書（大久保町西島）、②西島水利組合文書（同上）、③安藤友久家文書（大久保町大久保町）の調査を行った。

① 卜部昌家文書調査

2018年度より卜部家より明石市史編さん室に文書を借用し調査を進めている。第1回借用分史約1350点の史料について目録作成・写真撮影等をほぼ終了した。同文書群については、市史編さん室事務局に以前より借用されていたため、第2回借用に移る前に、これら合計3箱の整理を行うこととし、目録作成・写真撮影を進めている。

本年度の調査も本学人文学研究科の学生・大学院生、明石市立文化博物館の義根益美氏の協力を得て、2019年6月19日・23日・26日、7月27日、8月18日・21日、9月14日・15日、10月19日・27日、11月23日・24日、12月8日・22日、2020年1月11日・12日、（予定：2月22日・23日）に行った（計16回）。

② 西島水利組合文書

本文書については、7月6日・7日に調査を実施し、目録作成と写真撮影を行った。未調査史料がまだ残っているため、次年度も調査を継続する予定である。

③ 安藤友久家文書

本文書は、2019年5月に明石市史近世史部会が調査を開始し、本学人文学研究科地域連携センターが協力して調査・整理にあたった。本年度は、6月29日に安藤友久家より市史編さん室へ史料を搬出・簡易クリーニングし、7月26日に文書収納箱への箱詰めを行い、以降の目録作成作業は市史近世史部会へと引き継いだ。

(2) 地域資料調査に関する情報発信

2019年9月7日開催の市制施行100周年記念明石市史シンポジウム「歴史から探る明石の魅力」（明石市主催）において、地域資料調査の実施やその方法に関するパネル展示を市史編さん室事務局と出展し、地域資料の保全や情報提供について市民に呼びかけた。

・ 古代播磨の歴史文化遺産調査

本年度から古代部会と共同し、古代を中心とする播磨地域の歴史文化遺産の調査を開始した。調査・研究の遂行のために、高橋明裕氏が本学人文学研究科の非常勤講師として仕事を進めている。本年度は、調査・研究の成果として明石市史紀要『明石の歴史』第3号に高橋明裕氏による論考「古代の魚住泊について」を掲載する予定である。また、市民向けの報告会として、3月14日に高橋明裕氏を講師としてフィールドワーク・講演会からなる「寺山古墳石室指定記念歴史講座」（主催：明石市、共催：本学人文学研究科地域連携センター）を開催する予定であったが、新型肺炎対策のため、延期となった。

・ 明石市史編さん委員会

2019年8月29日に明石市立文化博物館において開催された明石市史編さん委員会へ、地域資料調査の担当者として出席した。

3. 横河家文書調査・公開業務



姫路市香寺町での連携事業

第18回地域連携協議会において、香寺町史研究会主催の大槻守が、同会と香寺中学校との取り組みについて紹介した。(本報告書第1章参照)

また、2020年2月13日に香寺公民館において香寺歴史研究会の報告会「地域の歴史を伝えるー中学校と連携してー」が開催され、佐々木和子(神戸大学地域連携推進室)が「現代の出来事を未来へつなぐー阪神・淡路大震災の経験からー」と題した講演を行った。

また、同会での研究会メンバーや中学生らの報告に対し、井上舞がコメントした。

(文責・井上舞)

佐用町との連携事業

2009年台風9号(佐用大水害)から10年を迎える佐用町では、追悼式典をはじめ防災・減災に関するイベントが行われた。この間、人文学研究科地域連携センターは台風直後から歴史資料

ネットワークや佐用町教育委員会、佐用郡地域史研究会などボランティア団体・行政・地域史研究団体と連携し、水損古文書・美術品やアルバムのレスキューを行ってきた。

そこで佐用郡地域史研究会ではこの10年を振り返り、地域の歴史資料が持つ意味を再考する機会を持つべく、2020年2月29日にさよう文化情報センターにおいてシンポジウム「佐用大水害10年 文化財レスキューと地域資料の防災を考える」が開催された。神戸大学地域連携推進室からは松下正和が基調講演を、小野塚航一がコメンテーターとして参加した。

またセンターが兵庫県と共催している「文化財防災研修会」での成果もふまえ、佐用町教育委員会や同町企画防災課防災対策室も参加しともに、水損史料レスキューのあり方や史料から判明した佐用郡の歴史、地域文化財防災と持続可能なコミュニティづくりなどについて議論をおこなった。この水害を契機として同会では古文書部会を立ち上げ、資料取り扱い講習や講演会で学びを深めつつ、襖の下張り文書など地域史料の解読や研究紀要の刊行を進めている。センターとしても地元行政や地域史研究団体との交流を継続し、今後も同地域の歴史文化の掘り起しに努めていきたいよう期待したい。

(文責・松下正和)

福崎町との連携事業

福崎町とは2009年度より共同研究を開始した。2017年度からは「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし」と「大庄屋三木家住宅文献資料調査」(2017年度は民俗資料調査)という2つの共同研究に取り組んでいる。具体的な活動については、以下の通りである。

1. 共同研究「福崎町の地域歴史遺産掘り起こし」

(1) 松岡家関連資料調査

今年度は松岡家関連の書簡葉書資料の翻刻を引き続き行った。また、昨年度の「松岡静雄展」を受けて、福崎町立柳田國男・松岡家記念館に書簡の寄贈があったため、これの調査を行った。また、再来年に「松岡映丘展（仮）」が企画されているため、このための資料収集を進めた。

(2) 地域所在資料の調査・整理

・中島区有文書の整理・調査

福崎町南田原中島に所蔵されている区有文書について、区長からの依頼を受け、昨年度より毎月1回、地域住民とともに整理・調査を進めている。

2019年12月に目録作成が完了し、12月と2020年1月の整理会で、資料を中性紙封筒に詰め替える作業を行った。

また、これまでの調査成果を広く知ってもらうため、公民館で展示を行うことが決定し、現在その準備を進めている。

・庄地区円照寺文書の調査

福崎町八千種庄地区に所在する円照寺の檀家総代より、寺の改修中に見つかった古文書について相談を受けた。資料点数が少なかったため、事業内で整理作業を行うことにし、長谷川幸子（福崎町教育委員会）、石橋知之（神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程）の両名が資料の撮影・目録作成を行った。

次年度、寺の改修が終わった段階で、古文書を返却し、檀家の方や地域住民を対象にした資料解説を行う予定である。

(3) 『広報ふくさき』での成果還元

調査成果を町民に広く知ってもらうべく、連携事業開始時より『広報ふくさき』誌上に調査成果を寄稿している。今年度前半は、昨年度からの継続で松岡静雄の生涯について連載形式で紹介した。後半は、福崎町立柳田國男・松岡家記念館に保管してある井上通泰宛書簡を紹介した。今年度の掲載月は6月～8月、10月～1月、3月であった。

(4) 事業報告書の作成

今年度事業についてまとめた報告書を、3月に発行予定である。

2. 兵庫県指定文化財 三木家住宅文献資料調査

(1) 文献資料調査

昨年度からの継続事業で、大庄屋三木家の文献資料調査を行った。具体的には、①既調査資料の所在確認調査、②未調査資料の目録作成、を行った。①については、今年度を以て調査を完了した。次年度以降は②を中心に進めていく。

また、今年度は今後の資料活用に資するべく、室山京子（神戸大学大学院人文学研究科学術研究員／神戸大学非常勤講師（研））と石橋知之（神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程）が、詳細目録の作成や、資料の翻刻等に取り組んだ。

(2) 副屋・離れの襖・壁の下張り文書の調査

2019年10月より、三木家住宅のうち主屋をのぞく建物について、株式会社PAGEが指定管理者となり、宿泊施設や飲食施設に改修されることになった。この工事の際、襖や壁から大量の下張り文書が発見された。いずれも三木家の歴史解明につながる重要な資料であるため、調査を行う必要があったが、襖は仕立て直して再利用することだったため、急ぎ下張りを剥がしてまくりすることになった。11月に福崎町教育委員会の協力を得てこの作業を行い、約40枚の襖と、約10面の壁の下張りを剥がすことができた。まくりについては、次年度以降地域住民を交えた下張りのはがしのイベントを実施する予定である。

また、今回調査した襖の中から、柳田國男の祖母松岡小鶴が三木家当主に宛てた書簡が発見された。松岡小鶴についてはこれまで残された資料が少なく、直筆書簡の発見は大きな成果であった。書簡は断簡を含めて約30点あり、次年度以降も解説作業を進めていく予定である。

(3) 調査成果の還元

調査成果を広く知ってもらうべく、三木家住宅において特別展示「福崎の文化と三木家—文化を楽しむ三木家の人々—」（会期：2019年11月12日～12月22日）の開催に協力した。また関連行事として、11月24日に開催された三木家入門講座において、井上舞が「三木家の文化的活動」と題する講演を行った。

（4）事業報告書の作成

今年度事業についてまとめた報告書を、3月に発行予定である。

（文責・井上舞）

猪名川町における連携活動

（1）古文書学習会への協力

有志による自主運営で開催している「猪名川の古文書を楽しむ会」（会員）同会の例会を今年度も、第3土曜日をレギュラーに実施してきた（8月・11月は休会）。会員は15名だった。

（2）猪名川町文化財審議委員会

昨年度以来、委員には地域連携推進室特命准教授の松下正和氏が就任している。今年度の委員会は、11月20日に開催されたが、本務の都合により松下氏は欠席した。今年度はもう1回開催予定とのことだが、日程は未定である。

（文責・木村修二）

大学協定に基づく大分県中津市との連携事業

大分県中津市は神戸大学の前身である神戸高等商業学校初代校長である水島鏡也の生誕の地であり、神戸大学のゆかりの地である。2014年5月

に中津市で開催された水島校長生誕150年記念講演会をきっかけに、交流がはじまった。2015年7月には、中津市監修による『マンガ明治・大正期の教育者 水島鏡也』（梓書院）が出版され、本学文書史料室が資料提供を行うなど関係が築かれてきた。

2016年度に締結された神戸大学と大分県中津市との包括的連携協定の一環として、歴史文化領域では、昨年度中津市歴史博物館（仮称）活用推進委員会の委員長に奥村弘が、副委員長に松下正和（地域連携推進室特命准教授）が就任した（同会は2018年度で廃止）。また、近世展示アドバイザーとして、木村修二が囑託された。今年度は、9月27日に中津市歴史博物館協議会が同館にて開催され、同会会長に奥村が、副会長に松下が選出された。11月1日に新たに開館した中津市歴史博物館の開館記念式典に、本学からは奥村・松下両名が参加し、奥村会長からは博物館へのメッセージが贈られた（参加約130名）。

（文責・松下正和）